



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2012年3月期 第2四半期決算 説明資料

2011年11月28日

<目次>

- **事業概要**
- **第2四半期決算概要**
- **通期業績見通し**
- **注力分野の状況**
(オーブンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

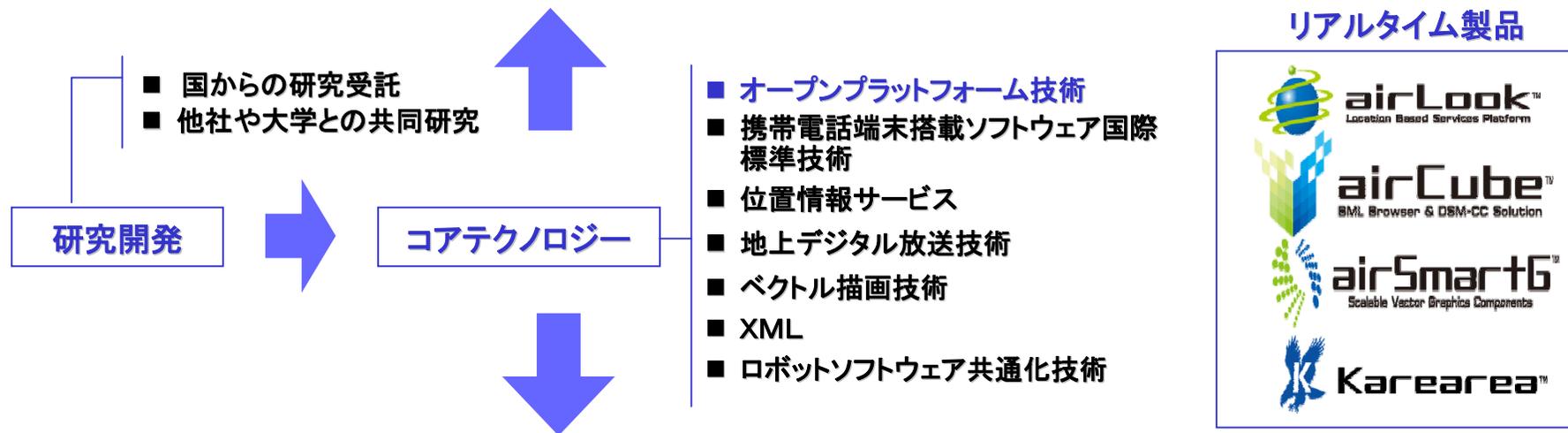
事業概要

QCD&I をスローガンとするお客様中心ビジネス

「New Element to New System」

New Element による New System で不可能を可能に、
それが最高のお客様満足度に、ビジネスの高付加価値化に繋がる

リアルタイムソフトウェアビジネスは、コアテクノロジーを核とする主体的なビジネスで高付加価値化を目指し、
業績のベースを確保する ⇒ フロー型のビジネス



リアルタイムソリューションビジネスは、コアテクノロジーを製品化し、それを核とした様々なビジネスモデルに
チャレンジし、業績を向上させる ⇒ ストック型のビジネス

40年の実績のあるリアルタイムソフトウェアビジネス(フロー)とリアルタイムソリューションビジネス(ストック)の
両輪で、ビジネスを拡大する

セックの技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス			リアルタイムソリューション
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッドソフトウェア	コアテクノロジーサービス	技術アプリケーション	
モバイルネットワーク		オープンプラットフォーム技術 携帯電話端末搭載 ソフトウェア国際標準技術	基幹ネットワーク	RealtimePower シリーズ <i>air</i> Look <i>air</i> Cube <i>air</i> SmartG Karearea リアルタイム製品を 核とするビジネス
ワイヤレス	スマートフォン タブレット 携帯電話端末	地上デジタル放送技術		
インターネット	非接触型IC 情報家電 車載端末	ベクトル描画技術 XML	Webシステム	
社会基盤システム		位置情報サービス技術	防衛 交通(航空,ITS) 環境エネルギー	
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	ロボットソフトウェア 共通化技術	ロケット 人工衛星 天文	

第2四半期決算概要 (2012年3月期)

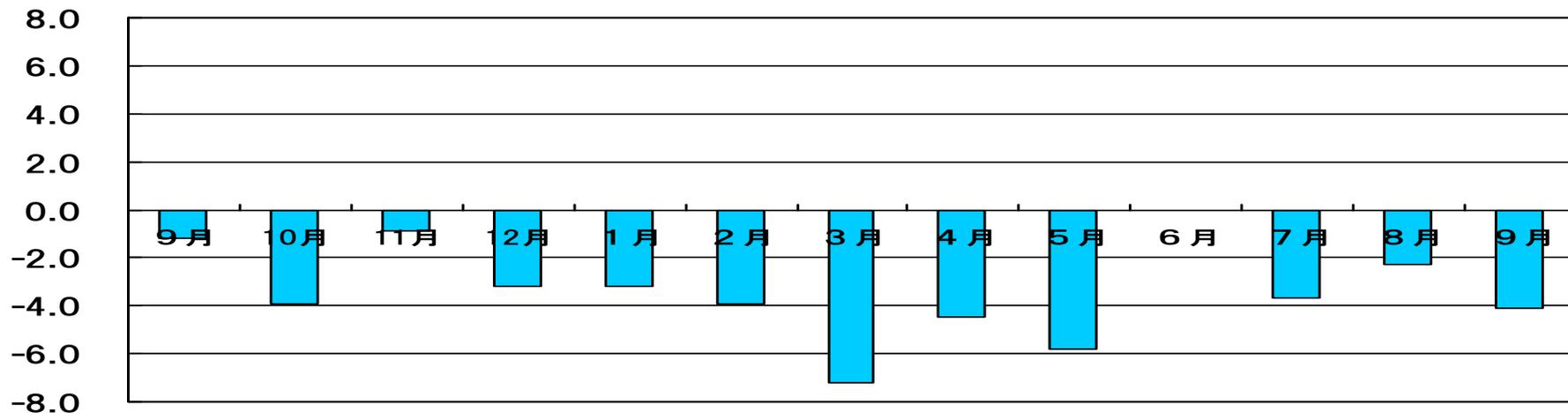
事業環境

2012年3月期第2四半期の事業環境

平成23年4月から9月までの月別売上高は、前年同月比で5月まで連続で減少しており、6月は前年同月並みであったものの、7月は再び減少に転じ、IT需要は依然として低迷していた。

単位：%

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



■ 業界全般

成熟期を迎えているかのように見える市場、クラウドコンピューティングの活用で「持つから使う」への流れ
→労働集約型から知識集約型へ、受託開発からサービス型へ、多重下請け構造から水平分業へ、3つの構造変化

■ 当社

携帯電話からスマートフォンへ、**オープンプラットフォーム**のビジネスモデルに変化
→オープンプラットフォームの商談が活発、コンペが増加し、Android開発実績の先行優位の提案で対応

2012年3月期第2四半期（上期）総括

計画を上回り、前年同期比で増収増益

■売上高及び利益面は計画を上回り、前年同期比で増収増益

- 売上高は、Android搭載スマートフォンなどのオープンプラットフォームの開発が好調で、過去最高（売上高：計画達成率104%、前年同期比114%）
- 営業利益は、売上高が伸びたことに加え、研究開発費が当初予定を下回ったことにより、大幅に増益（営業利益：計画達成率1140%、前年同期は赤字、経常利益：計画達成率174%、前年同期比1560%）

■受注高及び受注残高は計画を上回り、前年同期比でも増加

- 受注高は、オープンプラットフォーム関連の商談が活発で計画を上回り好調（受注高：計画達成率104%、前年同期比102%）
- 受注残高は、受注高が計画を上回ったことにより増加（受注残高：計画達成率101%、前年同期比112%）

■オープンプラットフォーム関連商談が活発であった

- Android搭載のスマートフォンやタブレットのエンベデッドソフトウェアが好調
- オープンプラットフォームの通信事業者向け技術アプリケーションが好調
- 電子マネー（非接触型IC）のエンベデッドソフトウェアが好調

第2四半期損益計算書

	2011年3月期 (百万円)	2012年3月期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,271	1,450	114.1	1,400	103.6
売上原価	980	1,044	106.6	1,030	101.4
売上総利益	291	405	139.5	370	109.7
販売管理費	316	291	92.3	360	81.1
営業利益 (営業利益率)	▲25 (-)	114 (7.9%)	-	10 (0.7%)	1,140.1
経常利益 (経常利益率)	10 (0.8%)	156 (10.8%)	1,560.7	90 (6.4%)	173.8
四半期純利益	▲36	88	-	50	177.4

売上原価 社員増に伴う人件費の増加、外注費の増加、製品開発費は74百万円(前期比65%増)

販売管理費 新入社員の減少による人件費の減少、研究開発費は、45百万円(前期比35%増)

営業外損益 ロボットと環境エネルギーの研究開発の補助金収入は、35百万円(前期比42%増)

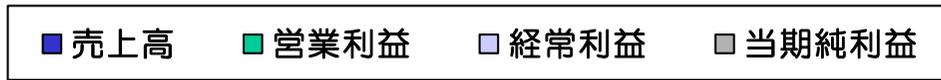
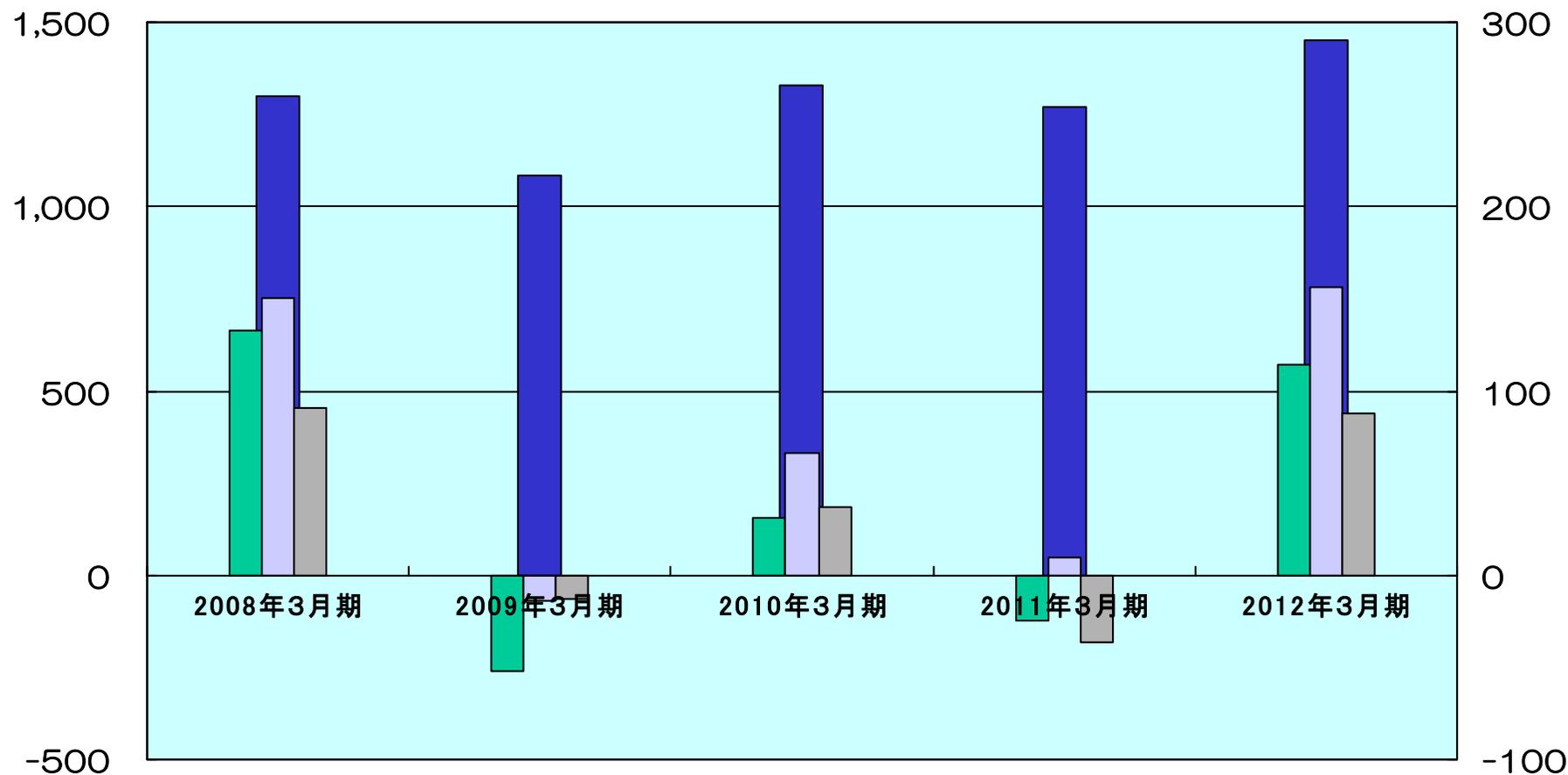
特別損失 投資有価証券評価損は、3百万円(前期は移転関連と会計基準適用の影響額が67百万円)

第2四半期決算業績推移

売上高

単位:百万円

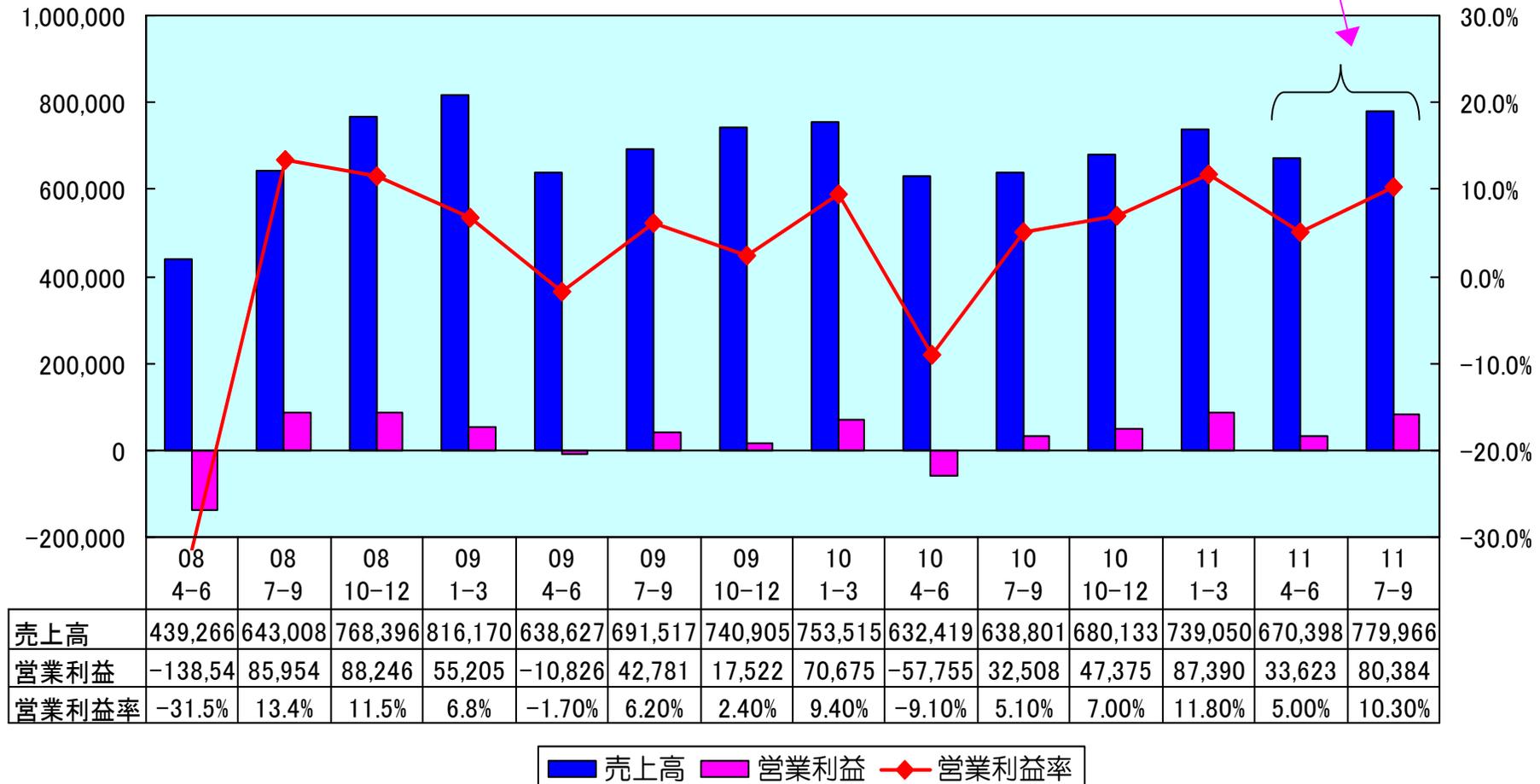
利益



四半期業績推移 (PL)

第1四半期、第2四半期ともに売上高が同四半期比で増収
 第1四半期が黒字化、第1四半期、第2四半期ともに増益
 営業利益率は第1四半期5%、第2四半期10%と堅調

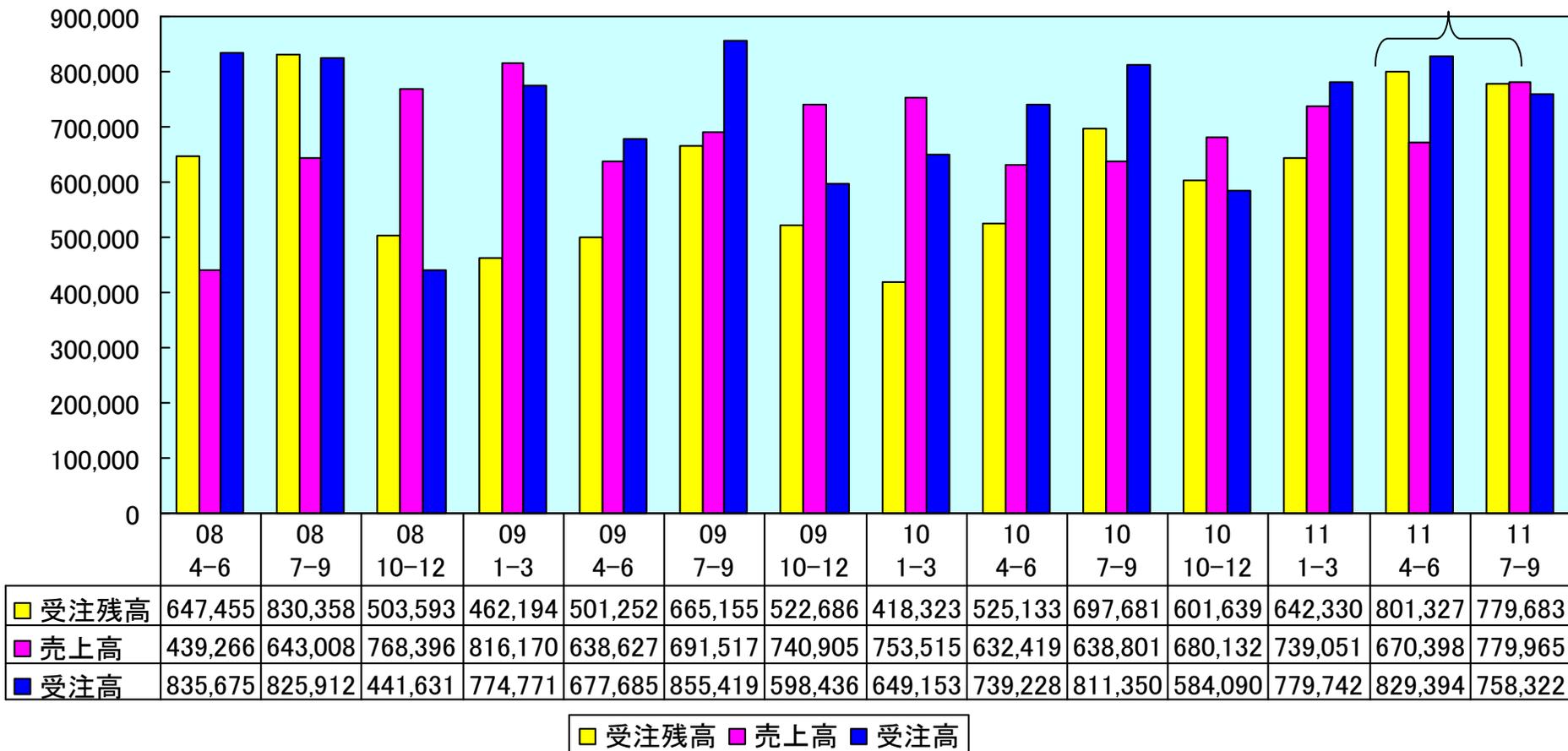
単位:千円



四半期業績推移 (受注)

受注高は、第1四半期は計画を上回り、前年同期比でも増加したが、第2四半期は計画を下回り、前年同期比でも減少、上期全体としては増加
 受注残高は、計画及び前年同期を上回って推移し、第2四半期末としては前期比増

単位:千円



第2四半期BF別の状況

オープンプラットフォームが堅調、インターネットは回復基調

ビジネスフィールド	2011年3月期		2012年3月期			前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	166	13.1	208	14.4	114.4	124.7
ワイヤレス	544	42.8	698	48.2	120.3	128.3
インターネット	227	17.9	229	15.8	84.6	101.1
社会基盤システム	120	9.5	103	7.1	69.0	85.8
宇宙先端システム	146	11.5	120	8.3	82.4	82.1
ソリューション	65	5.2	90	6.2	129.0	137.7
合計	1,271	100.0	1,450	100.0	103.6	114.1

モバイルネットワーク
ワイヤレス
インターネット
社会基盤システム
宇宙先端システム
ソリューション

オープンプラットフォーム関連の技術アプリケーションが堅調
Android搭載スマートフォンのエンベデッドソフトウェアが増加
不況の影響は残るが、一部で回復基調
官公庁系の大型技術アプリケーションが減少
宇宙関連の開発計画の縮小や切り替え時期
airCubeforAndroidのロイヤリティ収入の増加

⇒ 売上高は増加、利益面も増加
⇒ 売上高は増加、利益面も増加
⇒ 売上高は増加、利益面も増加
⇒ 売上高は減少、利益面も減少
⇒ 売上高は減少、利益面も減少
⇒ 売上高は増加、利益面も増加

第2四半期技術サービス別の状況

エンベデッド（端末）と技術アプリ（サーバ）の両技術の保有が強み

技術サービス	2011年3月期		2012年3月期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
エンベデッドソフトウェア	648	51.0	764	52.7	117.8
コアテクノロジーサービス	105	8.3	91	6.3	86.8
技術アプリケーション	451	35.5	504	34.8	111.7
ソリューション	65	5.2	90	6.2	137.7
合計	1,271	100.0	1,450	100.0	114.1

- エンベデッドソフトウェア、技術アプリケーション、ソリューションは、オープンプラットフォーム関連が好調であったことにより増加
- ユビキタス社会は、我々の身の回りの全てのものがネットワークに接続されている社会であり、情報端末を使ったこれからのクラウドコンピューティングを実現する上では、エンベデッドと技術アプリの両技術を保有していることが強み

第2四半期末の受注状況

下期は受注残高が前期を上回った状態でスタート

ビジネスフィールド	2011年3月期		2012年3月期				受注残高 前年同期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	計画達成率 (%)	受注残高 (百万円)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	175	95	145	76.6	81	53.5	85.1
ワイヤレス	655	215	762	119.0	206	102.0	95.6
インターネット	301	148	246	84.9	137	98.4	92.6
社会基盤システム	172	82	152	92.6	118	140.7	143.4
宇宙先端システム	127	67	114	74.7	73	84.8	108.0
ソリューション	118	87	165	183.8	163	151.0	186.3
合計	1,550	697	1,587	103.8	779	101.0	111.8

- 受注高は、計画を上回り、前年同期比でも37百万円の増加
- 受注残高は、計画を上回り、前年同期末比でも82百万円の増加
- ソリューションと社会基盤システムBFの受注残高が前期より大幅増

第2四半期末貸借対照表

単位:百万円

	2011年3月末日	2011年9月末日	増減
流動資産	2,823	2,993	170
固定資産	1,148	1,190	42
流動負債	417	645	228
固定負債	44	49	5
純資産	3,510	3,488	▲22
総資産	3,971	4,184	213
自己資本比率	88.4%	83.4%	▲5.0%
流動比率	677.0%	463.7%	▲213.3%
固定比率	32.7%	34.1%	1.4%

流動資産 主に現金及び預金の増加

固定資産 主に無形固定資産(ソフトウェア)の増加

流動負債 主に未払法人税等、賞与引当金の増加

固定負債 変動なし

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2011年3月期	2012年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	75	476	401
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲72	▲78	▲6
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲76	▲101	▲25
現金及び同等物の増減額	▲76	293	369
現金及び同等物期末残高	1,776	1,946	170
参考)長期預金	500	500	0
参考)現預金+長期預金	2,276	2,446	170

営業キャッシュ・フロー 主に税引前四半期純利益の増加、売上債権の減少による収入の増加

投資キャッシュ・フロー 主に無形固定資産の取得の増加

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加

通期業績見通し (2012年3月期)

2012年3月期業績見通し

下期もオープンプラットフォームが牽引

単位:百万円

	2011年3月期 実績	2012年3月期 見通し	前期比 (%)
売上高	2,690	2,900	107.8
売上原価	2,021	2,100	103.9
売上総利益	668	800	119.6
販売管理費	559	600	107.3
営業利益 (営業利益率)	109 (4.1%)	200 (6.9%)	182.6 (2.8ポイント増)
経常利益	206	300	145.1
当期純利益	80	170	211.9

業績見通し達成のポイント

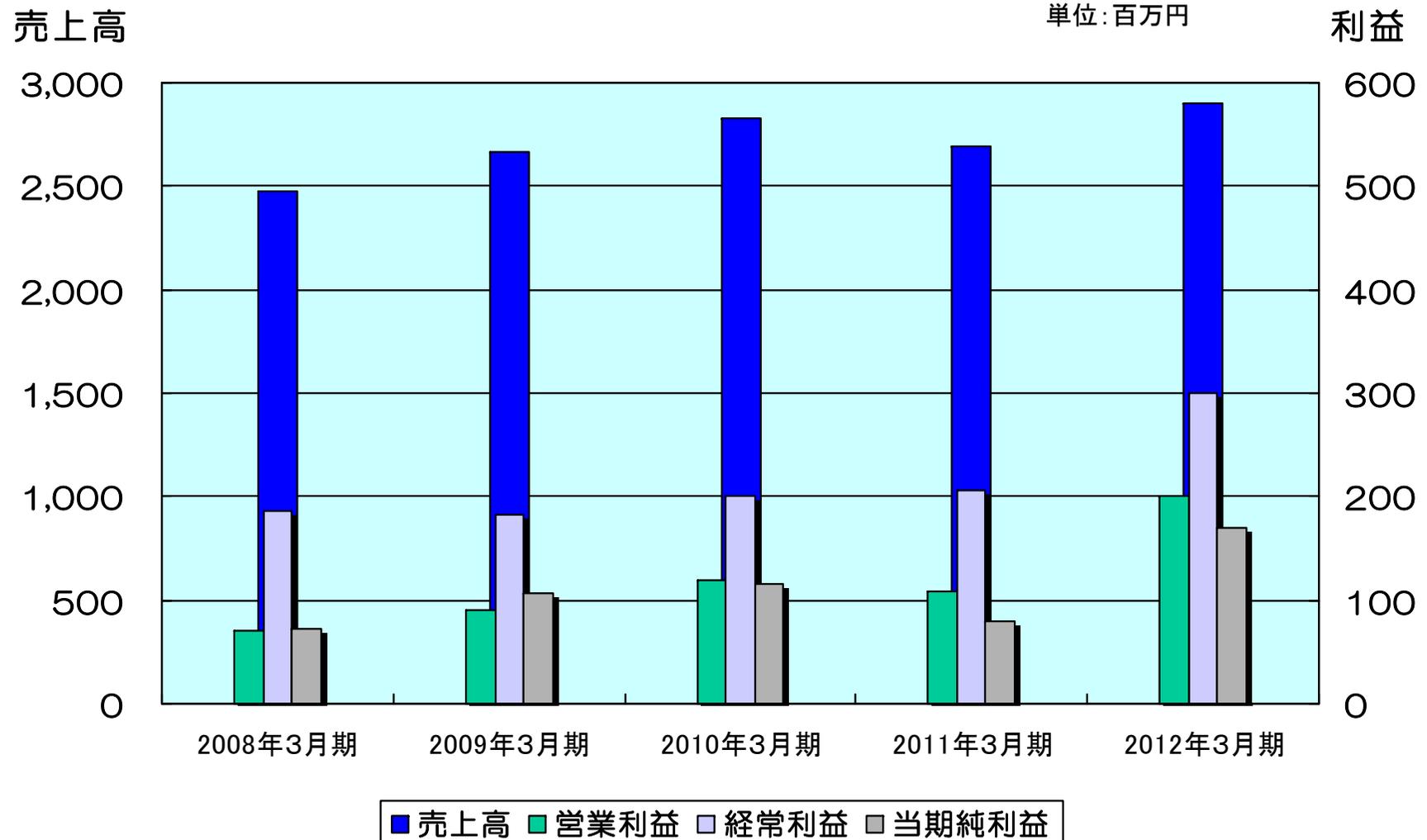
- 継続してオープンプラットフォームの商談を開拓

Androidのノウハウやソリューションを活用してワンストップ化を推進

- 社会基盤システムやインターネットの受注を拡大

復興関連と環境エネルギー分野の商談獲得

通期業績の推移



2012年3月期重点テーマ

変化先取りに注力し、技術提案力で顧客基盤を強化

期初方針	第3四半期以降の方針
他社との差別化を図り、競争優位を確保して受注につなげる：QCD&I	
<ul style="list-style-type: none"> ■技術提案力を主体とした活発な営業活動を継続、新規の商談を開拓し受注につなげる。 ■獲得した商談は、改めてQCD&Iにより、お客様満足度を向上させ、リピート商談につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■Androidを中心にコンペに技術提案力で積極的に参加し商談を獲得した。 ■下期も提案を主体に商談開拓を続行する。既存顧客には、新たな提案で顧客満足度を向上させ、リピート商談に繋げる。
成長が期待できる市場に参入する：オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット	
<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームにガラパゴス(地上デジタル放送、電子マネーなど)、国内仕様対応にフォーカス。 ■環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、開発案件の受注を目指す。 ■ロボットは、研究開発でRTミドルウェアを機能安全対応し、ビジネス化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームは、地上デジタル放送や電子マネー(NFC含む)を中心に好調だった。下期も積極的に展開する。 ■環境エネルギー分野は商談は多いものの、国からの委託研究にとどまる。下期も同じ傾向が続く。 ■ロボットは研究開発が前期より増加したが、期初計画を下回った。下期は研究開発に加え、適用案件を発掘する。
変化先取りに注力：研究開発と製品開発に積極投資	
<ul style="list-style-type: none"> ■研究開発は、NEDOなどからの受託研究であるロボットのRTミドルウェアの機能安全対応と環境エネルギーに取り組む。 ■製品開発は、airCube(地上デジタル放送用組込みソフトウェア)のAndroid版の機能強化中。 	<ul style="list-style-type: none"> ■研究開発費は当初計画を下回ったが、下期は、期初の目標を達成するために計画どおり進める。 ■製品開発は、airCubeのAndroid版の機能を拡張した。下期は、Android4.0への対応や機能強化などを検討中。

2012年3月期B F別業績見通し

オープンプラットフォームと環境エネルギー分野に注力

ビジネス フィールド	期初の方針	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	基幹ネットワークは、オープンプラットフォームに関連する日本固有機能の通信事業者向けサービスの受注を目指し、拡大	↑	オープンプラットフォーム関連の技術アプリが好調で予想を上回った。 下期も、積極的な提案で、継続的な受注を拡大する。	↑
ワイヤレス	携帯電話開発の切り替えが完了し、Androidを搭載したオープンプラットフォームのエンベデッドソフトウェア開発の受注増加を目指し、拡大	↑	airCube for Androidを軸に展開し、スマートフォンやタブレットなどの開発が好調で予想を上回る増加となった。 下期は上期ほどではないが、マルチメディア放送など新しいマーケットの顧客開拓を目指す。	↑
インターネット	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアは堅調だが、民間企業が多いため、景気の影響を引き続き受けることを考慮し、ほぼ横ばい	→	不況の影響はあるが、非接触型ICのエンベデッドソフトウェアが増加し、前期並みとなった。 既存顧客のマーケット維持、新需要の開拓などに努める。	→
社会基盤 システム	大型の交通分野の開発が完了し、防衛など社会インフラ系の技術アプリケーションが復調傾向にあるが、まだ不透明感が強く、縮小	↓	官公庁系の技術アプリケーションが復調せず、予想を下回った。下期は、入札案件への積極的な対応や復興需要など、受注拡大を目指す。通期では前期を下回る見通し。	↓
宇宙先端 システム	衛星搭載エンベデッドソフトウェア、国の研究機関の受注も前期並みで、ほぼ横ばい	→	宇宙関係が切替時期に当たって減少し、予想を下回った。下期は宇宙関係が動き出したが、通期では前期を下回る見通し。	↓
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品を中心に販売を強化し、拡大	↑	製品販売で成果が出ており、予想を上回った。 受注残も豊富で、前期を上回る増加となる見込み。	↑

注力分野の状況

(オーブンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

オープンプラットフォーム

国内仕様対応にフォーカスし、計画どおりマーケット拡大

■ 状況

- 2008年よりAndroidスマートフォン向けマーケットの開拓を推進。社員の育成も進み、約6割の社員がAndroid技術に対応。
- 国内主要スマートフォンベンダーより、開発、ソリューションともに受注が進む。
 - 「大規模なAndroidスマートフォンソフトウェア開発」と「日本国内仕様への対応」にフォーカスしマーケットを拡大。
 - アプリからミドルまでトータルなAndroid向け統合ワンセグソリューションairCube for Androidを開発し国内複数メーカーに採用される。

■ 実績（2012年3月期第2四半期、Android関連売上高：約8億円）

- 大規模なAndroidスマートフォン、タブレット向けソフトウェア開発
 - 国内携帯メーカーよりAndroidの大型アプリケーション、ミドルウェア開発を継続受注
 - Androidに関する知識と実績を活かし、キャリア向けコアテクノロジーサービスを受注拡大
- 日本国内仕様への対応（オープンプラットフォームにガラパゴスを）

ワンセグ

- ワンセグソリューションの機能を拡張、スマートフォンメーカー(3社)、家電メーカー(1社)と契約

電子マネー

- デバイスソフト、ミドルウェアからアプリケーションまでの一貫した開発の継続受注
- キャリア向けクレジット関連のアプリケーション開発の継続受注



■ 今後の方針（Android技術とマルチメディア、電子マネー関連技術の強みをさらに強化しマーケットを拡大）

- スマートフォン並びにタブレット、電子マネー関連Androidソフトウェア開発のワンストップ化の推進
- ワンセグソリューションairCube for Androidの機能拡張とマルチメディア放送への適用の拡大
- コスト競争力を強め、さらなる市場拡大へ取組む

環境エネルギー

研究成果をソリューション化して他社との共同ビジネスを推進

■ 状況

- 2008年度: 急速充電器遠隔監視制御システム(G-EV)を開発。環境エネルギー分野への取組み開始。
- 2009年度: KDDIと共同で、経済産業省平成21年度「大規模駐車場におけるスマート充電システム実証事業」にて「スマート充電システム」を開発。KDDIと共同で特許出願申請。
- 2010年度: NEDOの「蓄電複合システム化技術開発」共同研究委託先に選定。デンソー、豊田通商と共に商用施設用蓄電池付BEMS (Building and Energy Management System)の研究開発と実証検証に参画。
- 2011年度: 「蓄電複合システム化技術開発」は継続。地方自治体に「スマート充電システム」を販売。国内スマートシティ実証事業での受託開発を開始。

■ 実績 (2012年3月期第2四半期 受託研究補助金約3百万円)

- 受託開発／製品販売
 - 急速充電器遠隔監視制御システム「G-EV」保守運用→東京電力
 - 電気自動車充電プラットフォーム「スマート充電システム」販売→地方自治体(2011年12月サービスイン)
 - 国内スマートシティ実証事業での環境案件の受託(下期予定)
- NEDO共同研究
 - 「蓄電複合システム化技術開発」の豊田市実証グループに参画→2010年度にビル機器・設備等の運転管理によるエネルギー消費量の「見える化」エンジン開発。2011年度は、エネルギー需要予測エンジン、太陽光パネル発電予測エンジン等の予測エンジンの開発と電力制御(ピークカット)の検討を実施。



■ 今後の方針

- 「スマート充電システム」のビジネス化推進(KDDI、豊田通商とのアライアンス強化)
- エネルギーマネジメントシステムのビジネス化推進(デンソー、豊田通商、KDDIとのアライアンス)
- 環境エネルギー関連の受託開発案件の獲得を推進

ロボット

ユビキタス社会の究極の端末はロボット

■ 状況

- 2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位
- 2005年からNEDOからの受託研究を開始
- 2008年4月にOMG(Object Management Group)で国際標準仕様となったRTC(Robot Technology Component)をコアテクノロジーとしてビジネス化を推進

■ 実績 (2012年3月期第2四半期 受託研究補助金約33百万円、売上高約23百万円)

- NEDOからの受託研究
 - 「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」における2件の受託研究
 - ビジネス化に向け、RTミドルウェアの機能安全対応(IEC61508対応)を推進中
- 受託開発
 - ロボット関連メーカー、大学からの受託開発
- 展示会出展他
 - 国際ロボット展にてRTミドルウェア関連の研究成果を展示
 - 都市防災セキュリティ展にてAndroid端末と連携したセキュリティシステムを展示
 - 日本ロボット学会等にて論文発表



■ 今後の方針

- RTミドルウェアの機能安全対応(IEC61508対応)を行い、ビジネス化を推進
- RTミドルウェアを活用した実用ロボットシステムの受託開発
- RTミドルウェアを活用した稼働ログ等の新しいクラウドシステムのビジネス化検討

配当の方針

■ 配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。
- 安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。

この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによつて生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“ *Realtime@net* ”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03-5491-4770